

## 令和元年度 第 2 回大分市子ども・子育て会議での質疑応答内容(要旨)

1 日 時 令和元年 8 月 23 日 (金) 13:30~15:45

2 場 所 大分市保健所 6 階 大会議室

## 【令和元年度第 1 回大分市子ども・子育て会議で出された主な意見】

委員からの質問・意見	事務局回答	対応等
①保育士不足は待機児童の解消だけではなく、保育士が研修に行けず、また、休みが取れないなどの問題もある。保育士確保の新しい取り組み、特に新しい保育士確保策を盛り込んでほしい。	<p>「すくすく大分っ子プラン」は大分市の子どもと子育てに関する取り組みの基本となる総合的な計画ですので、計画内での記述は保育士として働いている人の離職防止と新規保育士の確保も含め、「職場環境の改善や勤務労働条件の向上に向け支援の充実を検討していく」としています。個別、具体的な事業については、計画策定後、計画を踏まえて具現化していくこととなります。</p> <p>なお、新しい保育士の確保については明確になるよう文言を検討します。</p>	別紙のとおり修正します。※資料1(別表)P1
②保育士の掘り起しは大学生からでは遅く、高校生から始めた方が良くと思う。こうすれば保育士になれる、幼稚園に就職する、などの情報提供をすれば雇用の促進が図られると思う。	昨年度から中学生、高校生を対象に保育士の魅力を伝えるリーフレットを作成・配布し、早い時期から保育士に興味を持ってもらえるようアプローチを行っています。	別紙のとおり修正します。※資料1(別表)P1
③国は「無償化により不要となる財源を地域における子育て支援の更なる充実に繋がるようにすべき」と言っている。そうした予算を保育士確保に充当していたら、保育士として大変助かると思う。	これまで保護者が負担していた保育料は、3歳以上児及び0歳から2歳の住民税非課税世帯の子どもが無償化に伴い、全て国・県・市の負担となり、来年度以降は市の負担が増える形になります。保育士の処遇改善は、毎年、人事院勧告に準拠する分と処遇改善等加算Ⅰ、処遇改善等加算Ⅱにより行っています。引き続き、予算を確保していきます。	

委員からの質問・意見	事務局回答	対応等
④県内出身者が多い福岡の大学等にアピールに行っているとのことだが、具体的な内容を教えてほしい。	5月から6月にかけて、大分県と合同で県出身者が多く在籍している福岡の短大等の養成校を訪問し、進路指導の先生に、大分市へのUターン就職を学生に勧めてもらうよう、協力を要請する取り組みを今年度から開始しました。引き続き県と連携して取り組むとともに、訪問する学校数の増加などを検討していきます。	
⑤松戸市では待機児童ゼロが3年ほど続いている。保育士への手当が大変手厚く、先生の質の向上を図るため先生の雇い入れや、住宅手当の補助、市長が勤続10年の保育士に記念品を贈呈するなど取り組んでいる。大分市でも松戸手当を参考にしてほしい。		松戸市の取り組みをはじめ、他市の取り組みも参考とし、効果的な取り組みについて検討していきます。

## 【(仮称)第2期すくすく大分っ子プラン(案) 分野2 子どもの育ちや自立への支援】

委員からの質問・意見	事務局回答	対応等
①数年前に文部科学省から、がん教育について外部講師を入れるなど積極的に取り組むよう通達が出ていたと思うが、次期計画には盛り込まれているのか。成人のがん検診受診率が10%未満で非常に問題になっているので 文言を追加した方が良いと思う。	がん教育は「健康教育」の一貫として実施されているところでありますので、文言の追加については検討します。	別紙のとおり修正します。※資料1(別表)P2

委員からの質問・意見	事務局回答	対応等
<p>②児童 100 名以上の放課後児童育成クラブ及び民間の児童育成クラブが市内にいくつあるか教えてほしい。</p> <p>私が所属しているクラブは最近建物が新しくなったが、今後も利用者が増加する見込みだ。子どもの安全・安心を考えた時に、建物だけでなく、そこで働いている人についても考えてほしい。新・放課後子ども総合プランの目標である「子どもの主体性を尊重し、健全育成を図る放課後児童クラブの役割を徹底し、子どもの自主性、社会性等の一層の向上に努めます」について、大規模な育成クラブではどう考えていけばいいのか。できれば、50 人くらいのクラブに分割できたらいいと思っている。</p>	<p>放課後児童育成クラブ 54、民間育成クラブ 11 の、合計 65 クラブあるうち、100 人以上は 17 クラブです。</p> <p>大規模なクラブの運営方法については、放課後児童支援コーディネーターがこれまでもアドバイスなどしてきましたが、独自にどういう形で取り組むとよいか、指導員の参考となるような研修を検討します。</p> <p>また、市から何か提案があればとのことでしたら、後日相談させていただきたいと思います。</p>	<p>新・放課後子ども総合プランの目標に鑑み、子どもの健全育成を担う指導員の役割は重要なことと考えております。各クラブにおいては、それぞれの個性を生かしながら、指導員が十分に子どもへの対応ができるよう放課後児童支援コーディネーターを配置しています。</p> <p>今年度から、さらにコーディネーターを 1 名増員し 3 名体制としており、指導員に対する支援体制の充実に努めております。</p>
<p>③児童育成クラブでは、未経験者も指導員になるため、トラブルなど問題を抱えることで重荷になり、長く働くことができず辞めていく人がいる。教育現場に携わった専門の人がいると、指導員もまとまると思う。</p>		<p>大分県が実施する放課後児童支援員認定資格研修会を積極的に受講していただき、指導員としてのノウハウをはじめとする知識を習得してもらうとともに、大分市でも、独自に様々なケースを想定した事案についての研修会を実施し、児童への関わり方や保護者への対応等の研修を受講することで指導員のスキルアップを図っています。</p> <p>さらに専門的知識を有する放課後児童支援コーディネーターを配置し、相談業務をはじめとする指導・助言を行っています。</p>
<p>④児童育成クラブの指導員の待遇を教えてください。</p>	<p>平成 29 年に指導員の報酬の改定を行い、主任指導委員の場合が年額で 180 万円、加配指導員の場合は時給 850 円です。</p>	

委員からの質問・意見	事務局回答	対応等
<p>⑤資料 2 の 16 ページの成果指標「いじめの解消率」「不登校児童生徒の出現率」について、どんな意図で出したか教えてほしい。</p>	<p>いじめや不登校は、大分市の喫緊の課題と認識しています。指標については、いじめの定義自体が変わり、より積極的に認知していくことになり数字の大小で判断することが難しくなったことから、「いじめの解消率」に変更しました。</p> <p>不登校については、今後児童生徒数が減少し経年比較がしにくいため、出現率に変更しました。</p>	
<p>⑥「いじめの解消率」や「不登校児童生徒の出現率」を成果指標に出すのは自然だと思うが、個別事業に記載している研修実施率は平成 30 年度で既に 100%である。この成果指標を達成するためには、個別事業をもう少し工夫する必要があるのではないか。</p>		<p>別紙のとおり修正します。※資料1(別表)P5</p>
<p>⑦児童育成クラブでは、いじめにどのような対応をしているのか教えてほしい。</p>	<p>運営委員会で対応できるいじめについては、各委員会で解決されていると思います。それでも解決できない、どういう風に取り組めばいいか分からない事案については放課後児童支援コーディネーターが指導員に対し指導やアドバイスをしたり、直接保護者と話して対応しています。なお、児童育成クラブにおける年間のいじめの件数は把握できていません。</p> <p>今後、考えていきます。</p>	

委員からの質問・意見	事務局回答	対応等
<p>⑧資料2の19ページの現状で「耐震・トイレ・空調等の工事を行っている」とありますが、トイレ、空調工事の進捗状況を教えてほしい。</p>	<p>トイレの改修は、大規模な長寿命化工事に併せて工事を進めることを基本とし、別途、スポット工事も毎年計画的に行っています。衛生面の配慮や、子どもたちの中には使いにくいということもあるので、全て洋便器ということではなく、和便器を最低1つは残しながら、洋式化を進めています。</p> <p>空調工事については、昨年8月に、中学校の普通教室への空調設備の設置が終わりました。小学校の普通教室においては、本年の2学期から使用可能な状態になっています。今後は、家庭科室や理科室などの特別教室への設置を検討していきたいと考えています。</p>	
<p>⑨不登校児童の居場所に関連して、学校においてもスクールソーシャルワーカーとの連携やスクールカウンセラーへ繋ぐなどの対応ができるようになったが、また、フリースクールについての知識も持ってほしい。</p> <p>学校に戻る際にも、加配の先生をつけないと、不登校児の安心・安全の確保に繋がらないと思う。保護者のサポートという意味でもお願いしたい。</p> <p>フリースクールに行かせるには費用がかかるが、補助がない。今、不登校児童も増えているので、配慮をお願いしたい。</p> <p>エデュ・サポートおおいたに関しては、不登校児が増えたと、個人への対応の間隔が長くなるので対応をお願いしたい。</p>		<p>不登校児童生徒への対応は生徒指導上の喫緊の課題と考えています。</p> <p>各学校では平成30年度から、不登校対策委員会を中心として、全学校に配置したスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、児童生徒の自立に向けた支援を行うとともに、新たな不登校を生まないよう「大分っ子不登校対応マニュアル」に基づき、学校生活の中での居場所づくりやきずなづくりに取り組んでいるところです。</p> <p>また、各学校は児童生徒の実情に応じ、エデュ・サポートおおいた内にある不登校児童生徒の支援を行っている教育支援教室「フレンドリールーム」や医療・福祉等の関係機関との連携を図りながら、組織的な対応の充実に努めているところであります。</p>

委員からの質問・意見	事務局回答	対応等
		<p>なお、フレンドリールームでは、児童生徒の実情に応じ、通級の間隔や毎週火曜日に行っている小集団活動、月・水・金曜日に行っている集団活動への参加について検討しているところであり、今後とも通級できる機会が増えるよう努めてまいりたいと考えております。</p> <p>フリースクールについては、教育委員会事務局が訪問し、指導状況等について把握に努めているところであり、学校との連携の在り方等については、検討していきたいと考えています。</p>
<p>⑩資料 3 の 7 ページ、個別事業の指標③「幼児教育・保育施設での充実」について、特別支援保育の基準を教えてください。</p>	<p>特別支援保育の基準としては、座位がとれ、他の児童との集団による保育が可能であることなどで判断し、特別支援保育審査会で決定しています。年齢は原則3歳以上児とし、療育手帳がある場合は2歳児以上となります。また、療育手帳や医師の診断書なども確認しています。</p>	
<p>⑪「障がいの受容に対するサポートが必要」とあるが、これは保護者が障がいを受容することへのサポートを指していると思う。だが、地域社会で障がいのある子が育っていく、生きていくためにも、地域社会が障がいを受容する、理解する、サポートする社会づくりをしてほしい。</p>	<p>ご意見を踏まえ、記述について検討します。</p>	<p>別紙のとおり修正します。※資料 1 (別表) P6</p>

委員からの質問・意見	事務局回答	対応等
<p>⑫小学校と特別支援学校との交流の機会を増やしてほしい。</p>		<p>特別支援学校との交流は、お互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶ場でもあると考えています。各学校の実情や障がいのある幼児児童生徒一人ひとりの実態に応じ、内容や方法等を検討し、実施したいと考えています。</p> <p>※参考 障害者基本法第16条第3項 国及び地方公共団体は、障害者である児童及び生徒と障害者でない児童及び生徒との交流及び共同学習を積極的に進めることによって、その相互理解を促進しなければならない。</p>
<p>⑬学校が障がいのある子どもを受け入れる基準を統一するか、もしくは受け入れられる学校を紹介するなどの情報共有が必要だと思う。</p>		<p>障がいのある児童生徒に対し、障がいの種別及び程度の的確な判定並びに就学指導により、その能力及び特性に応ずる適切な教育を行い、もって教育の機会均等の確保を図るため、「大分市障害児適正就学指導委員会」を設置しています。</p>
<p>⑭幼稚園の子どもでも、障がいのある子どもたちのサポートがとても上手だ。子どもとの触れ合いの中でお互いが育つという、人間としての育ちもあるので学校で受け入れてほしいと思う。</p>		<p>「大分市障害児適正就学指導委員会」は、医師や心理学者をはじめ、福祉、保健、教育の関係者からなる委員で構成され、学校からの資料や教育委員会事務局による面談等の内容をもとに、障がいの種別及び程度についてそれぞれの見地から総合的に検討し、適切な就学について判断を行っています。</p>

委員からの質問・意見	事務局回答	対応等
		<p>就学前の児童については、障がいの状態や教育上必要な支援の内容、地域における教育の体制の整備の状況等、「大分市障害児適正就学指導委員会」での総合的な判断を踏まえ、主に教育委員会事務局が保護者との相談を行う中で、可能な限り本人、保護者の意向を尊重し、教育的ニーズと必要な支援等について合意形成を図りながら、就学指導を行っています。</p>
<p>⑮配慮を要する子どもへの支援について、大分県では保育コーディネーターという資格があると思うので、もっと取り組んでほしい。</p>	<p>保育コーディネーターの活用については、コーディネーターからお話をお聞きするとともに、関係機関と連携しながら、活動しやすい環境づくりを図っていきます。</p>	